



## 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS



No. 79, 80

December 1987

### 日本産キシイモドキ科概説

八 田 耕 吉

**概要** この科の種が日本から最初に記録されたのは1874年で、REITTERがLEWISの滞日中に採集した標本のなかから *Byturus affinis*, *B. atricollis* および *B. ferrugineus* の3種を記載した。その後、LEWIS (1895) は *Xerasia variegata* を軟鞘類の1種として、九州の人吉で採集 (1881) した個体に基づいて記載した。この種は、後に CROWSON (1955) によりキシイモドキ科に入れられ、久松 (1959) も上翅の独特な色、幅広い小あごひげ、前基節窩が接しないこと、などにより、この科に含めることが妥当であるとした。

いっぽう、太田 (1930) は *Terobyturus* 属を創設し、*T. shibakawai*, *T. japonicus* および *T. fallax* の3新種を含め、さらに *Byturus oakanus* を新種として記載した。しかし河野 (1936) は、*B. oakanus* を *B. tomentosus* のシノニムとした。三輪・中條 (1938) は日本産キシイモドキ科の目録を作り、そのなかで太田 (1930) の記載した属と種を従来知られていた属や種と同じであると判断し、*T. shibakawai*, *T. japonicus*, *T. fallax* を *B. atricollis* のシノニムとし、太田が *B. atricollis* としたものを *B. affinis* のシノニムに、*B. oakanus* を *B. tomentosus* のシノニムとして扱った。BARBER (1942) は世界のモノグラフのなかで、REITTER (1874) の *B. ferrugineus* は LATREILLE (1804) に先取されているとし、*B. ohtai* の新名を与え、*T. shibakawai*, *T. japonicus*, *T. fallax* の3種を復活させた。八田 (1970) は日本産の種をまとめ、*T. shibakawai*, *T. japonicus*, *T. fallax* を *B. atricollis* に、太田 (1930) の書いた *B. atricollis* を *B. affinis* に、*B. ferrugineus* を

*B. ohtai* に、*B. oakanus* は *B. tomentosus* とは分けて扱い、台湾の1新種 *B. formosanus* を併せて記載した。さらに、*Xerasia variegata* を含めて検索表を作成し、日本産のキシイモドキ科は *B. tomentosus* (樺太) を除き、2属5種であるとした。ここでは、その結果に基づいて日本産各種の紹介をする。

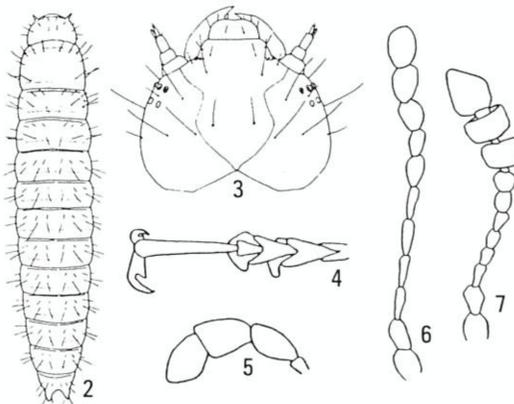
**生態** キシイモドキ科の生態については、SCHÖNING (1953) は *B. tomentosus* と *B. fumatus* が Raspberry fruitworms と呼ばれるとし、その生活を詳しく述べている。幼虫は *Rubus* 属のイチゴの花托や実の中に棲息し、成熟すると土中に入って蛹化し、成虫は夏期に花上に集まることが知られている。いっぽう *Xerasia variegata* については、久松 (1959) が春遅く見られ、花を訪れることはないとしている。著者の見た標本でもその記録は5月、6月上旬であった。日本産の幼虫としては、福田 (1959) が *B. affinis* を、林 (1986) が *B. atricollis* を記載している。ここでは参考のため、後者の図を引用して示しておく (第2, 3図)。

**科の特徴** 体は長方形。体色は淡褐色から暗褐色まで多様で、従

来、種の区別点として色彩がもちいられたが、この特徴をもちいることはできない。背面は小さく密に点刻されるが、深い条刻はなく、全面に細かい毛が密生している。触角は11節よりなり、先端3節は大きく棍棒状で、基部2節も太い。前小転節は露出する。前脛節の先端外縁に歯突起がある。後基節は接近している。跗節は5-5-5で、第2, 3節は先端に向い拡がる (第4図)。小あごひげは幅広い (第5図)。



第1図 キシイモドキ *Byturus affinis*  
REITTER



第2図 幼虫全形図(林, 1986), 第3図 幼虫の頭部背面(林, 1986), 第4図 跗節(久松, 1959), 第5図 小あごひげ(久松, 1959), 第6-7図 触角—2-3: ズグロキスイモドキ *Byturus atricollis* REITTER. 4-5, 7: ツノブトハタルモドキ *Xerasia variegata* LEWIS. 6: キスイモドキ属 *Byturus*.

日本産キスイモドキ科の属の検索表

1. 背面は周縁部がやや明るく, 上翅には模様がない; 雄の前脛節は幅広く, 中央で顕著に弧状に弯曲している; 触角は棍棒状……………  
…………… *Byturus* LATREILLE キスイモドキ属
- 1'. 背面は周縁部と同色で, 上翅に不規則な暗褐色のまだら模様がある; 雄の前脛節はあまり幅広くない; 触角はなめらかな垂棍棒状. 1属1種で日本特産. ……………  
…………… *Xerasia* LEWIS ツノブトハタルモドキ属

日本産キスイモドキ属の種の検索表

1. 前胸の後角は広く丸くなっている(第8図)……………  
…………… *B. atricollis* REITTER ズグロキスイモドキ
- 1'. 前胸の後角は角ばるか, 狭く丸くなっている(第9-11図)……………2
2. 雄の前脛節はややまっすぐで, 強く下方に曲がらず, 下面の先端部1/3に小歯がある(第14図); 肩角(上翅基部外角)は前胸よりわずかに広い(第9図)……………  
…………… *B. oakanus* OHTA エゾキスイモドキ
- 2'. 雄の前脛節は著しく広がり, 中央で弧状に弯曲し, 強く下方に曲がり, 下面の先端部1/4に歯がある(第15, 16図)……………3
3. 体は幅広く, 体側は弧状; 体色は黄褐色~暗褐色で, 背面は黄灰色の毛でおおわれている; 目は大きく, 突出している; 頭と前胸は微細に点刻される; 肩角は明らかに前胸より幅広い(第11図)……………  
…………… *B. affinis* REITTER キスイモドキ
- 3'. 体はより幅狭く, 体側は比較的平行; 体色は赤褐色で, 背面は白い毛でおおわれている; 目はゆるやかに突出する; 頭と前胸は, より粗く点刻される; 肩角は前胸よりむしろわずかに広い(第10図)……………  
…………… *B. ohtai* BARBER オオタキスイモドキ

1. *Byturus atricollis* REITTER ズグロキスイモドキ  
Verh. zool.-bot. Ges. Wien, 24: 526 (1874).

体長 4.0-5.5 mm, 体幅 1.8-2.2 mm. 体色は黄褐色~暗褐色と変化に富み, 背面は黄灰色の毛でおおわれている. 前胸の前角は広く丸まり, 後角も丸い. 側縁は強く弓状になる. 上翅は幅の1.8倍で, やや細長く, 体側は比較的平行に近い. 雄の前脛節は下面がえぐられ, 中央からゆるやかに曲がり, やや幅広く, 先方1/3に小歯をもつ(第13図). 雄の交尾器はやや細長く, 包片は幅の3.8倍(第17図).

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 奄美大島. 岐阜県以南では普通種と思われる.

2. *Byturus oakanus* OHTA エゾキスイモドキ  
Ins. Mats., 4: 101 (1930).

体長 4.3-4.7 mm, 体幅 1.8-2.0 mm. 体色は暗褐色で, 肢, 触角, 口器は褐色. 背面は灰黄~灰白色の毛でおおわれている. 前胸は中央のすぐ後でもっとも幅広く, 側縁は前方へ丸みをおびて強く狭まり, 後方へは弱く狭まって, 基部でわずかに波曲する. 後角は直角に近く, 先端は鈍く丸い. 背面はゆるやかに隆まり, 側縁部は広く扁平(第9図). 上翅は幅の1.7倍で前胸よりわずかに広い. 雄の前脛節は比較的細く, 弱く弧状となり, 下方の末端1/3に小歯をもつ(第14図). 雄の交尾器は細く, 包片は幅の4倍で長い(第18図).

分布: 北海道. 7月上・中旬に見られる.

3. *Byturus affinis* REITTER キスイモドキ  
Verh. zool.-bot. Ges. Wien, 24: 525 (1874).

体長 5.0-5.5 mm, 体幅 2.0-2.2 mm. 体色は黄褐色~黒褐色まで変化に富み, 肢, 触角, 口器は褐色. 体表面は黄灰色の毛でおおわれている. 前胸の幅は長さの約1.6倍で, 中央より少し後でもっとも幅広く, 側縁は弧状で前方へ適度に狭まり, 前角は丸い. 後方へはよりゆるやかに狭まって, 基部でわずかに波曲し, 後角は鈍角で先端は丸い(第11図). 上翅は幅の1.6倍. 前胸よりも明らかに幅広く, 肩角は丸みをおび, 体側は弧状. 雄の前脛節は前方に拡がり, 基部近くで強く曲がり, 非常に幅広く, 先方1/4に小歯をもつ(第16図). 雄の交尾器は短かく, 幅広く, 包片は幅の2.6倍(第20図).

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬. 北海道を除き全国に分布し, 普通にみられる.

4. *Byturus ohtai* BARBER オオタキスイモドキ  
Misc. Publ. U.S. Dept. Agric., (468): 11 (1942).

体長 4.0-5.0 mm, 体幅 1.8-2.0 mm. 体色は一様に赤褐色で, 白い毛でおおわれている. 前胸の側縁は弧状で, 前角は広く丸まり, 後角は鈍く, 丸い. 背面はゆるやかに凸隆し, 基部の両すみで少し波うつ(第10図). 上翅の側縁は平行に近く, 肩角は丸く, 幅は前胸よりむしろわずかに広い. 雄の前脛節は著しく広く, 中央で弓状になって, 下方へ強く曲

がり、下面の末端1/4に小歯をもつ(第15図)。雄の交尾器は長く幅広いが、包片の長さは幅の3倍で、やや短い(第19図)。

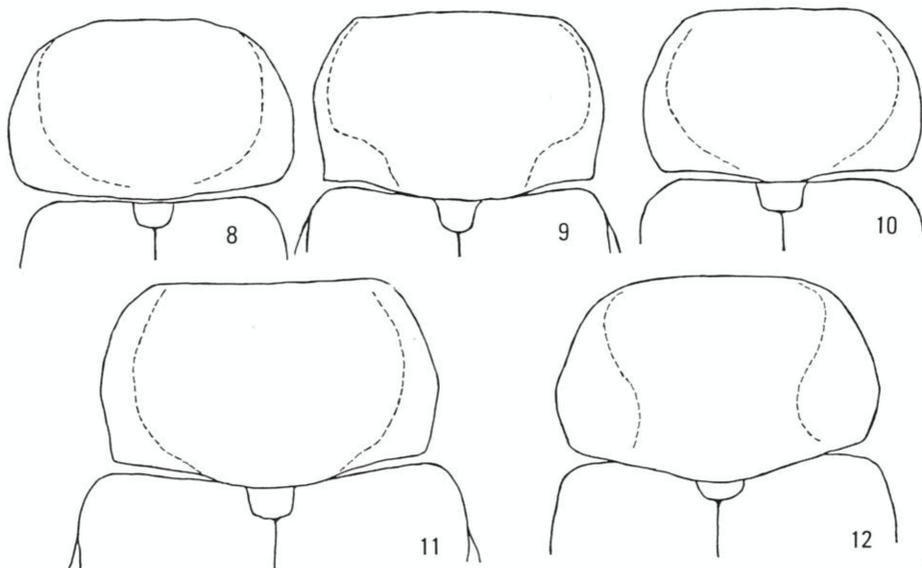
分布：本州，四国，九州，対馬。比較的少ない。

5. *Xerasia variegata* LEWIS ツノブトホタルモドキ

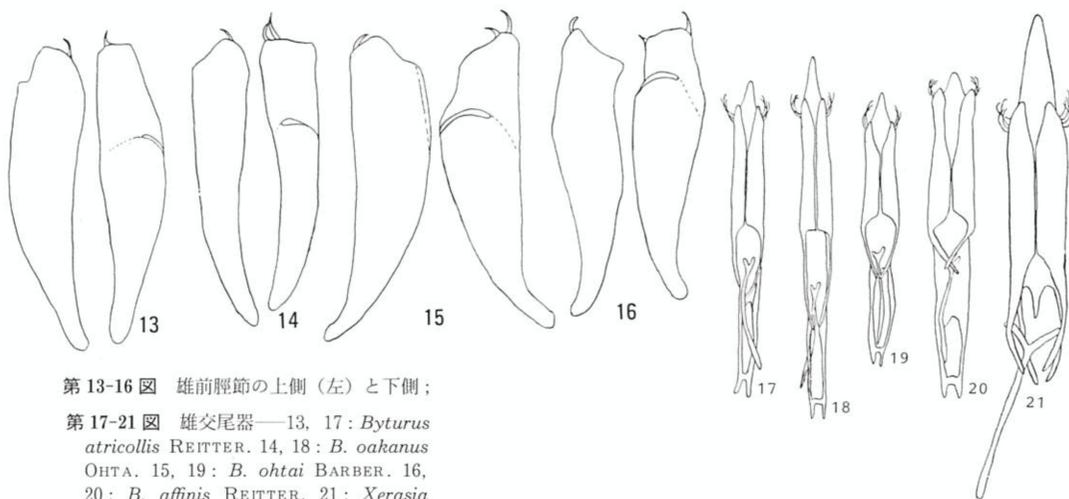
Ann. Mag. nat. Hist., (6) 16: 120, pl. 6, fig. 12 (1895).

体長 4.8-5.5 mm, 体幅 2.0-2.2 mm. 全体は赤褐色～淡褐色で光沢があり、淡黄色～灰白色の微

毛におおわれ、暗色部では暗色毛をそなえる。上翅には微毛からなる暗色のまだら模様がある。口肢は暗色。眼はやや小さく、多少粗雑な個眼からなっている。触角の第1・2節は太く、第2節は第1節より小さく、第3節は第2節より長い、細い(第7図)。前胸の幅は上翅とほぼ同じか、やや狭く、側縁は強く弓状で、前角は広く丸く、後角は鈍角で丸い(第12図)。前胸はやや不規則に密に点刻され、上翅はやや粗く、横しわ状に点刻される。雄の前脛節は細長く、拡がらず、先方1/4に小歯をもつ。雄



第7-12図 前胸背板と上翅基部—8:ズグロキスイモドキ *Byturus atricollis* REITTER, 9:エソキスイモドキ *B. oakanus* OHTA, 10:オオタキスイモドキ *B. ohtai* BARBER, 11:キスイモドキ *B. affinis* REITTER, 12:ツノブトホタルモドキ *Xerasia variegata* LEWIS.



第13-16図 雄前脛節の上側(左)と下側;

第17-21図 雄交尾器—13, 17: *Byturus atricollis* REITTER. 14, 18: *B. oakanus* OHTA. 15, 19: *B. ohtai* BARBER. 16, 20: *B. affinis* REITTER. 21: *Xerasia variegata* LEWIS.

の交尾器は大きく、幅広く、包片も大きく幅広い(第 21 図)。

分布: 本州, 四国, 九州. 産地は局地的で個体数も少なく, 比較的標高の高い山地に分布している. 四国では 700 m 以上の標高地でしか採集されていない。

終りにあたり, 本稿をまとめるについてご指導下さり, 標本のご援助を賜った久松定成氏をはじめ愛媛大学農学部昆虫学研究室の皆様方, 名古屋女子大学の佐藤正孝氏に心から厚くお礼申しあげる。

#### 主要参考文献

- BARBER, H., 1942. Raspberry fruitworms and related species. *Misc. Publ. U.S. Dept. Agric.*, (468): 1-32.  
 CROWSON, R.A., 1935. The natural classification of the families of Coleoptera. 187 pp., Nathaniel Lloyd, London.  
 HATTA, K., 1970. Byturidae of Japan Archipelago (Coleoptera). *Trans. Shikoku ent. Soc.*, 10: 107-110.

林 長閑, 1986. 幼虫による科までの検索表. 原色日本甲虫図鑑, I (森本, 林編), pp.202-217, 133 pls. 保育社, 大阪.

HISAMATSU, S., 1959. Notes on Japanese Clavicornia (Coleoptera). *Trans. Shikoku ent. Soc.*, 6: 59-61.

KONO, H., 1936. Die Clavicornien aus den Kurilen. *Ins. Mats.*, 10: 148-153.

LEWIS, G., 1895. On the Dascillidae and Malacoderum Coleoptera of Japan. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6) 16: 98-122.

三輪勇四郎・中條道夫, 1938. 日本産鞘翅目分類目録, pars 6. i + 61 pp. 野田書房, 台北.

OHTA, Y., 1930. Byturiden Japans. *Ins. Mats.*, 4: 100-103.

REITTER, E., 1874. Beschreibungen neuer Kafer Arten nebst synonymischen Notizen. *Verh. zool.-bot. Ges. Wien*, 24: 509-528.

佐々治寛之, 1985. キスイモドキ科. 原色日本甲虫図鑑, III (黒沢, 久松, 佐々治編), p.212, pl.34. 保育社, 大阪.

(名古屋女子大学)

#### ○群馬県霧積温泉のナガゴミムシ類

1986年6月7, 8両日に, 群馬県碓氷郡の霧積温泉において甲虫談話会の採集懇親会が催された. その折に筆者が採集した歩行虫のうちからナガゴミムシ類5種を報告しておく。

群馬県における山地性のナガゴミムシ類については, 須田(1985)による分布調査の結果が公刊されている\*. その分布図には霧積温泉附近の調査も印されているが, 生息個体群の特徴やデータの一部が省略されているので, 小篇は補足資料ともなるであろう。

1. ニッコウオオズナガゴミムシ *Pterostichus* (subg. ?) *macrogenys* BATES

4♂♂1♀, 7. vi; 4♂♂7♀♀, 8. vi.

ほかにもかなり採集され, 個体数は比較的に多い. 体長はいずれも 15-17 mm 前後.

2. ハラトゲナガゴミムシ *Pterostichus* (*Epinialoe*) *spiculifer* BATES

17♂♂3♀♀, 7. vi; 16♂♂2♀♀, 8. vi.

本種は4亜種が知られているが, 霧積温泉の個体群は, それらのいずれとも相違し, かなり特異なものである. 地理的には基亜種の分布域とも考えられ, 前胸背板の前角がよく突出し, 基部凹陷の外側が上反して, ほぼ滑沢な点では基亜種に似ているが, 前胸背板がきわめて幅広い. 基縁が前縁より明らかに幅広く, 一見, シンシュウナガゴミムシ *P.* (*E.*) *crisatoides* STRANEO によく似ている. また, 上翅基縁の両側は肩に向って斜めに強く彎曲する. 雄の腹板末節の突起は, 基亜種のそれとは明らかに異なり, 長野県八ヶ岳に産する subsp. *yatsuensis* STRANEO に似ているが, 体形はこれともまったく異なる. かなり顕著な特徴をもつ個体群なので, そ

の分布域が特定できれば, 新亜種として区別すべきものと考ええる.

3. ミヤマナガゴミムシ *Pterostichus* (*Nialoe*) *rhanis* TSCHITSCHÉRINE

5♂♂, 7. vi; 10♂♂, 8. vi.

4. カタシナガゴミムシ *Pterostichus* (*Nialoe*) *katashinensis* HABU

1♂1♀, 7. vi; 2♂♂2♀♀, 8. vi.

上記2種も亜種が知られているが, 霧積温泉の個体群は, 形態的特徴から基亜種に属するものと考ええる.

5. ミズギワナガゴミムシ *Pterostichus* (*Nialoe*) *asymmetricus* BATES

42♂♂6♀♀, 7. vi; 多数, 8. vi.

本種は群馬県各地の山間部に多いことが知られているが, 霧積温泉でも溪畔林やガレ場の石下に多く, 数頭から10数頭の集団も見られた. ほとんどが雄であったが, 秋になると性が逆転する. 本種も地域変異に富み, 群馬県では須田・内山(1987)が日光・足尾山地において垂直分布内にみられる変異を詳細に調査し, 興味深い結果を報告している\*\*. 霧積温泉の個体群は体長 15-17 mm 前後. 複眼の後方はふくらみ, 雄の腹板末節の突起は強く斜め, 先端はかなりとがっている. 陰茎の先端片は, あまり広くないが明らかにヘラ型である.

\* 須田 亨, 1985. 群馬県の甲虫類. 群馬県動物誌: 305-387. 群馬県. 群馬県高等学校教育研究会生物部会.

\*\* 須田 亨・内山裕司, 1987. 日光・足尾山地におけるミズギワナガゴミムシの変異について. *インセクト*, 38: 16-21.

(千葉県船橋市, 笠原須磨生)

中国遼寧省營口県のハンミョウ相

李 景科・澤田博史

營口県は、中国東北地方、遼東半島の基部西側に位置し、東部は山地、中央部は畑作地、西部が稲作地となっている。この報文は、李が観察採集したものを澤田が同定した。澤田は送付された各種1-2個体を検し、それ以外の採集品は李が保管している。

1. *Cicindela* (s. str.) *gemmata* FALDERMANN, 1835

1頭、營口県建一路公山, 24. viii. 1981; 1頭(写真1), 營口県呂王, 12. v. 1984; 1頭, 盖県臥竜泉地陽村, 19. x. 1986.

以上は基亜種であって、山地路上や山頂に産するので、日本産亜種とは生息環境が異なると思われる。

2. *Cicindela* (s. str.) *transbaicalica hamifasciata* KOLBE, 1886

2頭、營口県黄土嶺, 24. viii. 1983; 1頭, 同, 13. x. 1985; 1頭, 同, 19. x. 1985; 2頭, 同, 7. ix. 1986.

山地河原の砂地に産する。東アジアに広く分布する亜種であって、上翅肩紋が連結すること以外は日本産亜種によく似ている。これらと比較して基亜種やモンゴルの ssp. *magnifica* W. HORN, 1905 は、色彩、斑紋がかなり異なる。

3. *Cephalota* (*Taenidia*) *chiloleuca* (FISCHER, 1820)

5頭(写真2), 營口県柳村塩田, 30. vii. 1987.

本産地で李は、50 m<sup>2</sup> において18頭の個体を観察している。東東南部から中央アジアをへて中国北部まで分布する。

4. *Cylindera* (s. str.) *obliquefasciata* (ADAMS, 1817)

3頭(写真3), 營口県大石橋, 5. vii. 1981.

トルケスタンからシベリア、中国北部~東北部に

分布する種である。

5. *Cylindera* (s. str.) *gracilis* (PALLAS, 1777)  
2頭、營口県黄土嶺, 3. vii. 1983.

澤田に送付された1♀は、ab. *angustata* FISCHER であるが、李の手許の1頭は上翅燈色紋を有する原型である。

6. *Cylindera* (*Eugrapha*) *elisae* (MOTSCHULSKY, 1859)

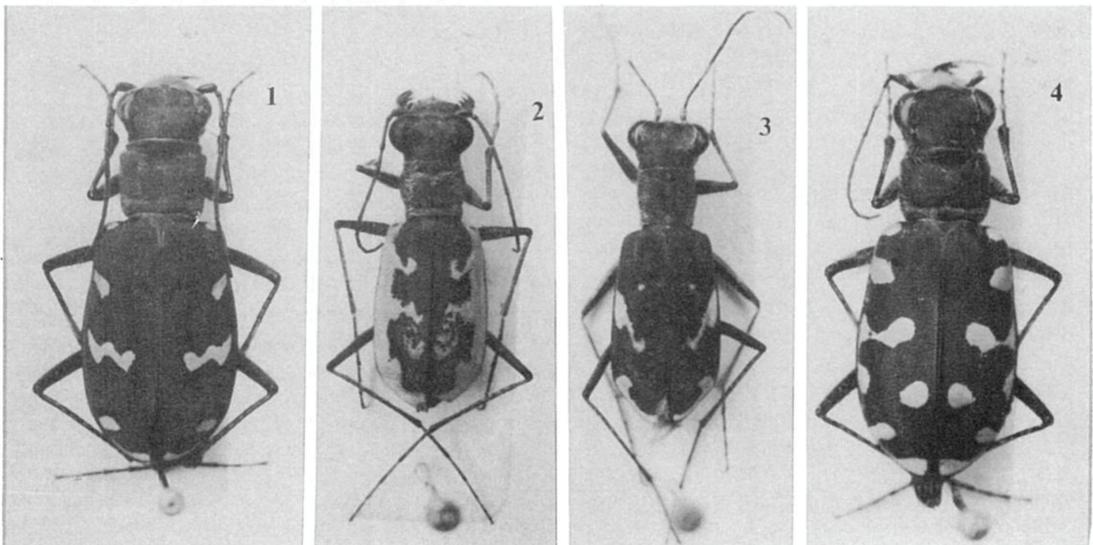
2頭、營口県大石橋, 10. vi. 1981.

平地の畑に産する。李は1983年大石橋において、燈火飛来数を観察、6月に61頭、7月に171頭を確認した(採集はしていない)。

7. *Lophyridia littoralis peipingensis* (MANDL, 1934)

1頭(写真4), 營口県大石橋, 4. viii. 1984; 7頭、營口県柳村塩田, 30. vii. 1984.

平地の畑に産する。柳村塩田では、調査面積100 m<sup>2</sup> 中に67頭の個体を観察している。本亜種の基準産地として北京、天津、吉林省、中国があげられている。黒色で光沢がなく、基亜種に似ているが、より強壯である。本種と *L. lunulata* (FABRICIUS, 1781) とは混同されてきたが、CASSOLA (1973) により両者は別種とされた。不勉強な澤田は、両種の関係について直接 Dr. CASSOLA に問い合わせた。それによると、*lunulata* は *littoralis* に比べ一般に大型、光沢のある黒色で、肢と体下面は青みを帯びた黒色、上翅の彫刻はより粗く、中帯紋はつねに現われたい点で異なり、北アフリカのみに分布し、通例内陸の塩湖(Chotts と呼ばれる)に産し、海岸にも見られる。それに対し、*littoralis* の基亜種は、アフリカ北西部の海岸および、スペイン、ポルトガル、フランスの大西洋沿岸に産する、という



ことである。後者はユーラシア大陸に広く分布し、いくつかの亜種に分けられている。

現在までの記録は以上であるが、この広大な地区を、李一人で調査しているので、今後なおいくつかの追加種があると思われる。

末尾ながら、*lunulata* と *littoralis* についてご教示いただいた Dr. Fabio CASSOLA および、文献でたいへんお世話になった方がた、大原昌宏氏、中根猛彦博士、堀道雄博士に厚くお礼申し上げる。

#### 参考文献

- CASSOLA, F., 1973. Études sur les Cicindelides. VI: Contribution à la connaissance des Cicindèles du Maroc. *Bull. Soc. Sci. nat. phys. Maroc*, 53: 253-268.  
 HORN, W., 1926. Carabidae, Cicindelinae. In JUNK, W.,

- & S. SCHENKLING (eds.). *Coleopterorum Catalogus*, pars 86, (pp. 211-251). W. JUNK, Berlin.  
 HORN, W., 1938. 200 Zeichnungen von Cicindelinae. *Ent. Beih. Berlin-Dahlem*, 5: 45-71, Taf. 62-70.  
 MANDL, K., 1934. *Cicindela lunulata* F. und ihre Rassen. *Arb. morph. Ent. Berlin-Dahlem*, 1: 124-129, 239-246.  
 MANDL, K., 1981. Bearbeitung einer Cicindeliden-Sammlung aus Ländern des Ferner Ostens und Beschreibung einer neuen *Calosoma* Rasse. *Kol. Rdsch.*, 55: 19-43.  
 RIVALIER, E., 1950. Démembrement du genre *Cicindela* L. (Travail préliminaire limité à la faune paléarctique). *Rev. f. Ent.*, 17: 217-244.  
 (李, 遼寧営口県農技推広センター; 澤田, 青森県青森市)

#### ○再びマメガムシの奇習について

本誌 75/76号(1987年3月)において、私は体を裏返し水面の裏側を歩くマメガムシの奇習について報告した。しかし、このことについては、古く1922年に故高橋良一博士がすでに報告しておられることを大野正男教授よりご教示を受けた。高橋博士は「タマガムシの習性及体の脊を下に向ける水棲昆虫」(1922, 動物学雑誌, 34: 77-79)と云う題で、主としてタマガムシ類 *Amphiops* の同様な習性について記し、同時に「小形のガムシ類及ドロムシ類は倒となり張力ある水の表面の下面の上を歩むことがある。タマガムシに就いては既に記した。又予はゲンゴロウ *Cybister* sp. の成虫の一匹が水面で体の腹面を上に向けて泳ぐのを見たことがある(1919年11月3日, 東京にて観察す。)」と述べておられる。小形のガムシ類には当然マメガムシも含まれていると考えるのが妥当であるから、博士はこの時すでにマメガムシについてもこの裏返しに歩く習性を観察しておられたと考えてよいであろう。博士はさらに裏返しになって水面下を歩む習性の起源について、「ガムシ及多くの水棲半翅類は水中では体の腹面に空気を保つ。空気は水よりはなほ軽いから之等昆虫の体は水中ではその腹面が上になるうとする傾向があるのは明である。殊に体の厚い昆虫に於いて然りである。体の厚いツヤミツムシは体の腹面を上に向けることの多いのはこの理由に因るのである。従ってマツモムシおよびタマガムシの如く体の厚い昆虫は倒となり軽い腹面を上に向けている方が安定であろう。また外に新しい空気を得るためには体の腹面を上に向けていた方が都合がよいであろう。普通の姿勢で泳ぐタガメが水面で倒となるのはこの理に因る所大であろう。かくの如く体の下面に空気を保つ水棲昆虫は倒とならんとする傾向を有するのである。マツモムシおよびタマガムシ等の倒となって泳ぐ習性はかくの如くにして生じたのであろう。」と述べておられる。今から65年も以前にすでに小形のガムシ類やドロムシ類が水面の裏側を裏返しになって歩むことを観察され、その理由について正確的確な判断を下された高橋良一博士の慧眼に感服

せざるを得ない。

最後になったが、高橋博士の報文の存在をご教示頂いた大野正男教授に深くお礼を申し上げたい。

(東京都世田谷区, 黒沢良彦)

#### ○タマムシ3種の記録

国立科学博物館所蔵のタマムシ科コレクションの中にあった日本産の3種を、分布資料として記録しておきたい。発表を快諾された黒沢良彦博士、ならびに愛知県のタマムシ科についてご教示下さった穂積俊文博士に厚くお礼申し上げます。

1. ツメアカナガヒラタタマムシ *Melanophila obscurata* LEWIS, 1893  
 1♂, 愛知県南設楽郡鳳来町大野, 4. v. 1969, 須賀邦羅採集。本州, 九州より記録があるが少ない種類で長野, 福島両県でまとも得られた例があるにすぎない。本州では、ほかに広島県から記録されている。
2. ホソツツタマムシ *Paracylindromorphus japonensis* (E. SAUNDERS, 1873)  
 1頭, 神奈川県大和市中央林間, 14. v. 1942, 長谷川仁採集。近隣都県では東京, 千葉, 埼玉より記録されている。
3. クロエグリタマムシ *Aphanisticus congener* E. SAUNDERS, 1873  
 1頭, 東京都世田谷区二子玉川, 20. v. 1948, 渡慶次稔採集。既に黒沢博士の日本産タマムシ科概説(15), 甲虫ニュース, Nos. 31/32, 1975に産地が記録されているが、さらに詳しいデータを示した。  
 (神奈川県横浜市, 秋山黄洋)

#### ◇ 報 告 ◇

かねてお知らせの通り、さる12月13日に上野国立科学博物館にて例会を開催し、九州大学の森本 桂助教授が「甲虫からみた生物地理」と題して、講演されました。終了後、恒例の忘年会では文献オークションがおこなわれ、懇親の席に賑いを添えました。思いがけぬ雪の一日となりましたが、遠路もいとわず来駕された森本氏ならびに会員各位に謝意を表し、ご健勝を祈る次第です。  
 (世話人)

## 日本産歩行虫ノート IV: チャイロコミズギワゴミムシについて\*

笠原 須磨生

チャイロコミズギワゴミムシ *Tachys luteus* ANDREWES は、シンガポール原産で、ハワイ、タヒチ、サイパンなどの太平洋各島のほか台湾にも分布する。日本では近年、東京都大田区の大井埋立地(笠原, 1984)と神奈川県川崎市の鶴見川(田尾, 1984)からあいついで記録された。

東京湾の沿岸では、潮流や船舶による渡来と推測される外国種の昆虫が発見されることがあり、本種もその一例ではないかと思われていた。しかし、筆者はその後、近畿(三重県)、四国(高知県)、九州(長崎県)で採集された標本を調べることができ、局地的な偶産ではなく、日本各地に広く生息している種であることが判明した。形態的に特徴の明らかな種でありながら、これまでに知られることがなかったのは、個体数が少ないためであろう。国外における記録も多くはない。そこで、ここに改めて図示紹介して、知見の加えられることを期待したい。なお、本種の同定については、地域変異その他に起因する若干の問題があり、これについては稿末で述べる。

はじめに、文献のご教示を頂いた森本 桂、上野俊一両博士ならびに森田誠司氏、標本のご援助にあずかった馬場金太郎博士、伊東善之、今坂正一、斉藤昌弘、田尾美野留、田中淑喬、生川展行、新里達也、西村正賢の諸氏に心からお礼申し上げます。

チャイロコミズギワゴミムシ *Tachys luteus* ANDREWES

ANDREWES, 1925, pp. 387, 390 (Singapore); CSIKI, 1928, p. 186; ANDREWES, 1930, p. 333; ZIMMERMAN, 1953, p. 4\*\*; JEDLIČKA, 1965, pp. 176, 177; DARLINGTON, 1970, pp. 13, 17-18, fig. 2, C; NAKANE, 1979, p. 54; 中根, 1983, p. 22; 笠原, 1984, pp. 63, 66, 図1; 田尾, 1984, p. 6.

体長 2.4-2.7 mm. 体幅 1 mm 前後. 体は平た

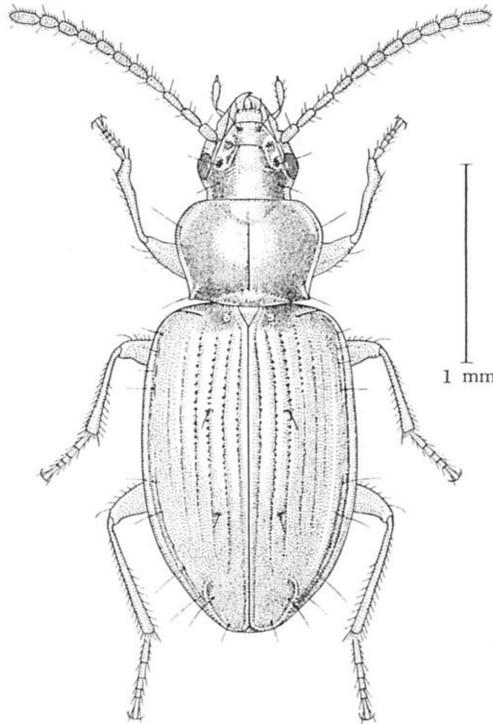
く、光沢がある。明褐色で頭部と前胸背板は、やや濃色; 口肢、触角、肢は淡黄褐色。

頭部は適度に中高で、頭頂部は光沢がある; 複眼は、やや扁平; 複眼上の後方刺毛は、複眼後縁から少し離れて生ずる; 前頭溝は幅広く、後方へ開き、後端部に斜めのしわがある; 前頭溝の外側前方から前頭界線の両側にかけて凹む; 微細印刻は明らかで、ほぼ等径状; 触角は先太り、第2, 3節はほとんど等長か、わずかに第2節が長い。

前胸背板は横位、適度に中高で光沢がある。前胸幅/頭幅は約 1.3; 幅/長は 1.4-1.5; 前方 1/3 で最も幅広い; 側縁は最広部から丸みをおびて前方へ強く狭まり、後方へは、やや直線的に狭まる; 後角は、ほぼ直角で、わずかに外側へそり、先端はとがり、明らかな縦隆起をとまなう; 基縁は前縁より幅広い; 基部横溝は深く、滑らか、もしくは弱く点刻され、中央条で二分される。

上翅は長卵形、やや平たく、光沢がある。上翅幅/前胸幅は 1.45-1.50; 長/幅は 1.5-1.57; 肩は丸く、側縁の縁取りは、肩から斜め内側へ延び、第4条の基部附近に達する; 基部孔点の周囲は圧下される; 条線は点刻され、第1-6条まで認められ、外側のものほど浅く、第6条は痕跡的、第1条のほかは前後が消失する; 第8条は、後半の第5側縁孔点から深く、中央部では消失するが、痕跡的に認められる個体もある; 翅端溝は深く、弯曲して前端部がやや拡がり、溝の外側は隆起する; 第3間室の2孔点は、基部 1/3, 2/3 にあり、第3条に接する; 微細印刻は横長で、きわめて微弱; 前胸腹板に溝はない; 後胸腹板の突起部(中基節間)は細く縁取られ、後方に横溝はない。

検視標本: 1頭, 東京都大田区大井埠頭, 23. v. 1982, 笠原須磨生採集; 1頭, 東京都大田区多摩川



チャイロコミズギワゴミムシ *Tachys luteus* ANDREWES, 東京都大田区大井埠頭産。

\* KASAHARA, S. Notes on Japanese ground beetles, IV: On *Tachys luteus* ANDREWES.

\*\* ハワイ昆虫学会第 555 回例会における ZIMMERMAN の談話記録。

六郷橋緑地, 17. ix. 1982, 新里達也・西村正賢採集(上記2例は, 笠原, 1984に記録済み); 1頭, 神奈川県川崎市鶴見川, 25. iii. 1979, 田尾美野留採集; 1頭, 山梨県道志村月夜野, 17. viii. 1986, 田中淑喬採集; 1頭, 三重県鈴鹿市山本町, 17. vii. 1986, 生川展行採集; 6頭, 高知県須崎市浦ノ内横浪こどもの森, 13. iv. 1985, 伊東善之採集; 1頭, 長崎県島原市新山, 3. vii. 1977, 今坂正一採集; 6頭, Koyo Spa, Hualien Hsien, Taiwan, 4. ix. 1986, 馬場金太郎採集; 2頭, Pishan Spa, Taithung Hsien, Taiwan, 3. ix. 1986, 馬場金太郎採集; 2頭, Tsaitieku, near Liukui, Kaohsiung Hsien, Taiwan, 2. v. 1986, 馬場金太郎採集.

分布: 日本(本州, 四国, 九州), 台湾, シンガポール, ハワイ, タヒチ, サイパン.

備考: 本種は, 下唇基節に眼状孔がなく, 上翅の孔点は2, 翅端溝が中央にあり, 爪は単純, などの点で広義の亜属 *Tachyura* に属する. ANDREWES (1925), JEDLIČKA (1965), DARLINGTON (1970) には, いずれも亜属をもちいず, それぞれ, *exaratus* group, *expansicollis* group, *politus* (incl. *exaratus*†) group に含める扱いをしている. JEDLIČKA のグルーピングは, 下唇基節の眼状孔を重視せず, アトオビコムズギワゴムシ *T. recurvicollis* ANDREWES も一緒に含まれていて奇異な感じを与えるが, ANDREWES と DARLINGTON は *luteus* がヒラタコムズギワゴムシ *T. exaratus* BATES に近いことを示し, 実際に, 色彩など外観上の相違にもかかわらず, 両者は上翅の条線, 側縁の形態などのほかにも共通点が認められ, 案外よく似ている.

また, JEDLIČKA (1965) は, ANDREWES が同定した台湾 (Kosempo) 産の本種に言及し, 触角の色彩を除き, 記載によく合致すると述べている. 筆者は, 馬場金太郎博士のご好意により, 多数の台湾産本種の標本を検査することができた. いずれも, 日本産同様に, 原産地や太平洋各島のもの(体長 2.4 mm) より大型 (2.7 mm 前後) であるが, 日本産との大差は認められなかった.

NAKANE (1979) は, 東京都小笠原の母島から記載したムニンコムズギワゴムシ *T. (Tachyura) boninensis* NAKANE が, *T. luteus* の local race かもしれないと述べ, 後者との相違点として, 大型 (3 mm) であること, 触角第2節が第3節より少し長いこと, 上翅の側縁が無毛で, 肩部から第4条の基部まで延びていること, を挙げている. ANDREWES (1925) による *exaratus* group の検索表では, *luteus* も *exaratus* も上翅側縁に毛が生じていることになるが, DARLINGTON (1970) は “elytral margins not setulose” と記し, JEDLIČKA (1965) の “*expansicollis* Gruppe” の

上翅側縁は “unbehaart” で両者とも ANDREWES の記述とくい違っている. 筆者のこれまでの所見でも, *luteus* も *exaratus* 同様に上翅側縁は無毛なので, ANDREWES の記述に手違いがあるのではないかと思っただが, 念のため解像力の良い顕微鏡で改めて調べてみた. その結果, 高倍率 (×60~80) で検鏡すると, *luteus* と *exaratus* の上翅の肩部附近に, きわめて微小な毛がまばらに認められる個体のあることがわかった. ANDREWES がみた *luteus* の基準標本 (1頭のみ) や *exaratus* は, この微細毛がやや顕著な個体だったのではなからうか. しかし, 両種とも通常は無毛とみた方が実体に近い. また, 上翅側縁の内側への延長点は, ANDREWES (1925) では第5条の基部から少し離れているとあり, DARLINGTON (1970) の図では第4条まで達している. 第4, 5条とも基部が消失しているので, 見方によっては, どちらともとれるが, 第4条付近まで延びている個体が多いようである. なお, ハワイ産の標本は, DARLINGTON が大英博物館へ送り, E.B. BRITTON により基準標本と比較同定されている. 以上のことなどから, NAKANE (1979) が示唆しているように *boninensis* は *luteus* の地方型かもしれないが, 日本と台湾産の *luteus* にしても大型である点は異なるので, 更に地域変異の実態が明らかになれば, なんらかの分類学的処置が必要となるかもしれない.

最後に, 本種のこれまでの記録をみると, 島嶼や沿海部に多く, 灯火に飛来した例が目だつ. しかし, 内陸の山間部でも得られているので, 本来は沿海的に拡散したものが, 灯火の増加につれて誘引され, 二次的に内陸部へ侵入していったものと考えられる.

#### 参考文献

- ANDREWES, H.E., 1925. A revision of the Oriental species of the genus *Tachys*. *Ann. Mus. civ. Stor. nat. Genova*, 51 : 327-502, tav. 3-4.  
 ————1930. Carabidae. *Catalogue of Indian insects*. Part 18. (xxii + 389 pp.). Calcutta.  
 CSIKI, E., 1928. Carabidae: Mormolycinae, Harpalinae I. In JUNK, W., & S. SCHENKLING (eds.). *Coleopterorum Catalogus*, pars 97 (pp. 1-226). W. JUNK, Berlin.  
 DARLINGTON, JR., P.J., 1962. The Carabid beetles of New Guinea. Part 1. Cicindelinae, Carabinae, Harpalinae through Pterostichini. *Bull. Mus. comp. Zool.*, 126 : 321-564, pls. 1-4.  
 ————1970. Coleoptera: Carabidae including Cicindelinae. *Insects of Micronesia*, 15 (1). (iii + 149 pp.). Honolulu.  
 JEDLIČKA, A., 1965. Monographie des Tribus Bembidiini aus Ostasien (Coleoptera, Carabidae). *Ent. Abh.*, 32 : 79-199.  
 笠原須磨生, 1984. 大田区の歩行虫. 大田区の昆虫 (大田区自然環境保全基礎調査報告書), pp. 63-72, 図 1-2. 東京都大田区.  
 NAKANE, T., 1979. New or little-known Coleoptera

† DARLINGTON, 1962, p. 404.

from Japan and its adjacent regions, XXX. *Rept. Fac. Sci. Kagoshima Univ.*, (Earth Sci., & Biol.), (12): 51-60.

中根猛彦, 1983. 日本の甲虫 (61) 新シリーズ. 昆虫と自然, 18 (4): 21-24.

西尾美野留, 1984. 横浜市北部の歩行虫目録 (1). 神奈川虫報, (73): 6.

ZIMMERMAN, E.C., 1953. In Notes and exhibition (March 10, 1952). *Proc. Hawaiian ent. Soc.*, 15: 4.

(千葉県船橋市)

### ○長野県北西部からルリバナチビオオキノコを記録

ルリバナチビオオキノコ *Triplax fukudai* (CHÛJÔ) は青森県を中心とした東北地方から知られ、中部地方からの記録はみあたらないようであるが、下記の通り、長野県北西部より採集したので記録しておく。

2頭, 長野県小谷村雨飾山, 7. vii. 1984, 筆者採集同定保存. どのようなキノコで得たのかは記憶にない. (福井県坂井町, 齊藤昌弘)

### ○大台ヶ原でフタホシセマルクスイを採集

フタホシセマルクスイ *Sternodea japonica* SASAJI は、福岡県、宮崎県で得られた個体をもとに1985年に記載された種であるが、その後記録はないようである。筆者は本種を下記のとおり得ることができたので報告する。

1頭, 奈良県吉野郡上北山村大台ヶ原, 7. vii. 1985, 筆者採集保管.

末筆ながら同定の労を賜った佐々治寛之先生に、感謝の意を表する。(三重県鈴鹿市, 生川展行)

### ○日本産ゲンゴロウ類分布資料 (2)

断片的であるが、新潟県妙高高原、長野県八ヶ岳西麓、山梨県増富鉱泉付近で得たゲンゴロウ科甲虫を記録する。これらのうち、妙高高原のオオヒメゲンゴロウは分布的に特筆すべきものと思われる。なお、妙高高原のクロズマメゲンゴロウを除けば、すべて夜間の採集例である。

1. 新潟県妙高高原町笹ヶ峰付近, 1986年9月20日 (クロズマメゲンゴロウを除く)

1) カノシマチビゲンゴロウ *Oreodytes kanoi* (KAMIYA) 6頭.

杉野沢橋の少し上流の路上(廃道)に生じた浅い水溜りから、次の2種ならびにオオヒメゲンゴロウとともに得た。当夜は降雨による影響で溪流の増水がいちじるしく、溪流部分からはゲンゴロウ類を1種も見い出せなかった。本種は従来、長野県下のみから知られていたが、最近になって福島県や北海道各地からも記録されるにいたった。

2) モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (SHARP) 2頭.

3) マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* SHARP 6頭.

4) クロズマメゲンゴロウ *A. conspicuus* SHARP 1頭, 9月21日.

薄陽のさす日中、ニグロ川に沿う林道脇に生じた小さな水溜りから得た。水中から生えているカヤツリグサ科の1種の茎の水面近くにおいて、ちょうど飛翔したところを目撃した。

5) オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus*

SHARP 1頭.

北海道と本州北東部に分布するが、従来の確実な記録は茨城県までで、今回の記録が西限となる。なお、この個体は体長13.4mm, 体が平たい点でヒメゲンゴロウとは一見して区別できる。

2. 長野県諏訪郡原村・富士見町境立場川, 1987年9月14日.

1) チャイロシマチビゲンゴロウ *Potamonectes anchoralis* (SHARP) 5頭.

立場大橋付近のよどみから次の2種とともに得た。中部地方における採集例はひじょうに少ないらしい。

2) キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* (SHARP) 3頭.

3) モンキマメゲンゴロウ 30頭.

4) クロズマメゲンゴロウ *Agabus optatus* SHARP 1頭.

立場大橋の上流、直線距離にして約3.6kmの地点の水溜りから次種に混じて得られた。

5) マメゲンゴロウ 6頭.

6) ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS) 2頭.

3. 山梨県北巨摩郡須玉町増富鉱泉奥の本谷川, 1986年9月22日.

1) チャイロシマチビゲンゴロウ 2頭.

2) モンキマメゲンゴロウ 19頭.

3) サワダマメゲンゴロウ *Platambus sawadai* (KAMIYA) 2頭.

4) コクロズマメゲンゴロウ *Agabus insolitus* SHARP 7頭.

すべて溪流脇の水溜りから得た。ライトを照らすと歩くように逃げるか、砂中に潜るだけで、泳いでいる個体は1頭も見なかった。

5) コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (GERMAR) 1頭.

末尾ながら、ご教示いただいた佐藤正孝教授、妙高高原と増富鉱泉奥の調査に同行した秋山秀雄氏、八ヶ岳西麓での採集に協力いただいた伊藤正宏・新井一政両氏にお礼を申しあげる。

(神奈川県立博物館, 高桑正敏)

### ○フクハラツヤゴモクムシ山梨県の記録

表題種 *Trichotichnus fukuharai* HABU は、大形で特徴も比較的顕著な種であるが記録は少なく、群馬県戸倉(基産地)、沼田; 東京都高尾山, 世田谷区千歳船橋; 富山県宇奈月などから知られている。筆者は、山梨県上野原の丘陵地で水銀灯に飛来した本種を得ているので報告しておく。

1♂, 山梨県北都留郡上野原, 7. x. 1987.

(千葉県船橋市, 笠原須磨生)

## ○奈良公園のオオキノコムシ2種の記録

筆者は採集例が少ないと思われるキオビチビオオキノコムシとタイショウオオキノコムシを奈良市の奈良公園で採集しているので記録しておく。また2種の食茸については殆んど知られていないが、キノコ類の研究者として著名な今関六也先生に、同時に採取した2種のキノコを同定していただいたので併せて報告しておきたい。

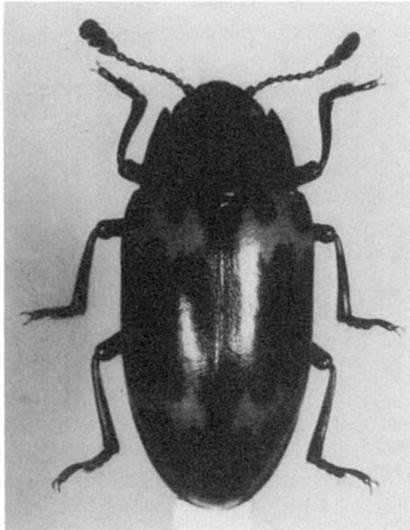
1. キオビチビオオキノコムシ *Spondotriplax flavofasciata* CHÛJÔ 8頭, 7. x. 1987.

本種は採集記録の大変少ない種のように、本州における確実な記録は *Fauna Japonica* に掲げられた新潟県村上市だけのようである。食茸についても同誌では不明となっているが、筆者の採取したキノコを同定された今関先生によればヒラタケ *Pleurotus ostreatus* (Fr.) KUMMER とのことである。

2. タイショウオオキノコムシ *Episcapha morawitzi* (SOLSKY) (写真)

21頭, 7. ix. 1982; 35頭, 7. x. 1987.

本種も採集例が少なく、本州では和歌山、京都、広島等の府県から分布が報告されているだけで、ほかに2~3の個所からも採集記録が見られるようだが真のタイショウオオキノコムシかどうか疑問視されている。



上記個体は2例とも、ナラ材と思われる直径60~70cmの倒木の表面にびっしりと生えたアラゲカワラタケ *Coriolus hirsutus* (Fr.) QUÉL の奥深く、あるいはナラ材の割れ目や、窪みに潜んでいたものを採集した。

文末であるが、お忙しい中キノコの同定を賜った今関六也先生、上記種の分布記録をご教示いただいた鈴鹿市の生川展行氏、さらに標本撮影をお願いした酒井 香氏に厚くお礼を申し上げる。

(東京都世田谷区, 沢田和宏)

## ○タマムシ3種の分布

私の手許にあるタマムシ類の標本の中に、記録する必要があると思えるものが若干あるので以下に記録しておく。

1. アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* SNELLEN VAN VOLLENHOVEN, 1864

1♂, 宇都宮市峰, 29. v. 1940, 小島圭三採集。

関東地方では、東京都渋谷区代々木<sup>1)</sup>、千葉県館山市<sup>2)</sup>、茨城県水戸市<sup>3)</sup>などから記録されているが、宇都宮市のような内陸地方からの記録はない。しかも、宇都宮市は緯度では水戸市よりも多少北にあるので、現在のところ、本種の最北分布地と云えるであろう。

房総半島で確認された本種の加害植物は、モチノキ *Ilex integra* THUNBERG とクロガネモチ *I. rotunda* THUNBERG で共にモチノキ属 *Ilex* の植物であるが、水戸市ではツゲ *Buxus japonicus* MUELL-ARG. に加害するという。ツゲはツゲ科に属し、モチノキ科ではなく、しかも一般に岩場に自生し、水戸市付近や宇都宮市周辺に自生地はない。水戸市では階楽園、宇都宮市では宇都宮高等農林学校(現在の宇都宮大学)の構内、東京都代々木では明治神宮境内<sup>4)</sup>で発見されており、共に人工の庭園内で採集されているので、植栽されている植物に付着して人為的に分布を拡げたものであろうと推察される。しかし、房総半島の産地にはこの様な気配はなく、恐らくは自然分布であろう。ただ気になるのは、水戸市の「ツゲ」と云う記録で、ツゲ科はモチノキ科の近くに位置するとは云え科まで異なる植物である。これは恐らく、同じモチノキ科のモチノキ属に属するイヌツゲ *Ilex crenata* THUNBERG の誤認ではなからうかという疑問が台頭して来る。水戸市の記録者は当時の中学生で専門家に同定してもらった形跡はない。一般にツゲもイヌツゲも共にツゲと総称しているので、これをそのまま鶴呑みにして、ただ「ツゲ」と記録したのではなからうか。イヌツゲであったら、モチノキやクロガネモチと同属のモチノキ科の植物であるので、房総半島の自然状態の加害植物とも結びつくし、庭園や生垣にいくらかでも植栽されている。また野外でも東北地方にまで広く分布している。この点、水戸市での再確認がほしい所であるが、その後水戸市では本種はまったく採集されていないとのことである。

2. アオタマムシ *Eurythyrea tenuistriata* LEWIS, 1892

1♀, 神奈川県丹沢山, 3. viii. 1964, 小島圭三採集。

前種と同様に小島圭三博士の採集品である。丹沢山では上翅一枚を拾った旨、高桑正敏氏によって記録されているが<sup>5)6)</sup>、完全な標本の記録はこれが最初であろう。関東地方では、関東山地、日光山地、阿武隈山地など周辺の山地に広く分布しているので、丹沢山地に産しても不思議ではない。また原産地は熱海と秩父、それに日光である。

3. アラムホソツタマムシ *Paracylindromorphus richteri* THÉRY, 1936

2♀♀, 東京都西多摩郡檜原村神戸, 12. vi. 1974, 小林裕和採集.

2頭共にギシギシの葉上にいたというが, 恐らくこれは食草ではないであろう. この仲間の基本的な加害植物はススキなどの単子葉植物である.

本種はアムール地方から記録された種類であるが, 日本では山梨県甘利山が産地として記録され<sup>7)</sup>ただけで, その後の記録がない.

註1) 平山修次郎, 1933. 原色千種昆虫図譜, pl. 66, fig. 7.

註2) 小笠原英明, 1967. 千葉県高岩山周辺のタマムシ. 昆虫と自然, 2 (10): 33; 中村芳樹, 1980. 千葉県におけるアオマダラタマムシの記録. 月刊むし, (115): 36; 服部宇春; 小林信之, 1984. アオマダラタマムシの千葉県における冬期採集記録. 甲虫ニュース, (64): 8.

註3) 竹内寧彦, 1938. 水戸で採れる珍甲虫. 昆虫界, 6: 709; 鶴町 浩, 1938. 水戸付近の特殊甲虫類に就いて, 虫の世界, 11: 197-198; 日置正義, 1939. アオマダラタマムシに就いて. 昆虫界, 7: 57-62; 種村 鴻, 1942. アオマダラタマムシの幼虫に就いて. 昆虫界, 10: 164-166.

註4) 原色千種昆虫図譜では図示標本の産地は東京代々木となっているが, 実際は明治神宮境内である旨を故平山修次郎氏より直接聞いた.

註5) 高桑正敏, 1981. 神奈川県産タマムシ科目録. 神奈川県昆虫調査報告書: 400.

註6) 高桑氏の記録の他に, 大足柄市大雄山で上翅1枚(平野幸彦氏採集)と西丹沢切通峠で朽木中より前胸部(高桑正敏氏採集)とが発見されているが共に記録はされていない旨高桑氏より伺った.

註7) 黒沢良彦, 1975. 日本産タマムシ科概説 (15). 甲虫ニュース, (31/32): 1-4.

(東京都世田谷区, 黒沢良彦)

○鹿児島県沖永良部島のカミキリムシ2種

1987年7月17~21日に鹿児島県沖永良部島を訪れた際, 興味深いと思われる次の2種のカミキリムシを採集したので記録しておく.

1. ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ

*Molorchoepania mizoguchii* (HAYASHI)

1♂, 大山, 17. vii. 1987. 沖永良部島初記録種.

2. オキナワフトカミキリ *Pebblephaeus okinawanus* (HAYASHI)

1♀, 越山, 19. vii. 1987; 1♂1♀, 越山, 20. vii. 1987.

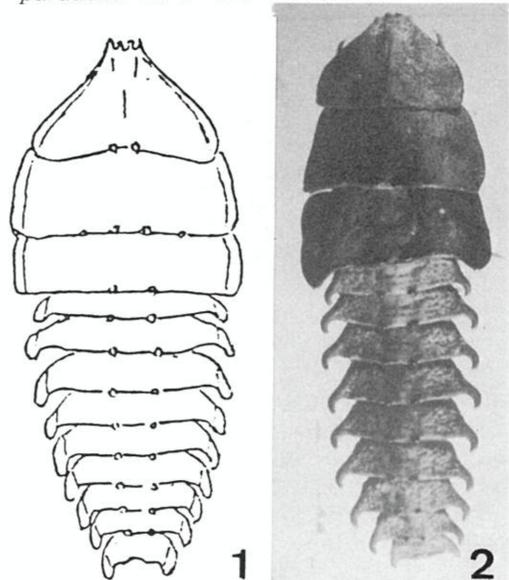
伊藤敏仁 (1986)\* によりシイの枯れ枝から羽化脱出した1♂1♀が同島初記録として報告されたが, 野外での採集例はまだなかったものと思われる. クワガタムシやハナムグリ類の採集のため, タブの梢をすくっていたところ落ちてきたもので, 個体数は少なくなさそうである. 7月中旬ではすでに発生末期のようで, 3頭のうち2頭までが破損や上翅の微毛のすれが目だつ個体であった.

\* 伊藤敏仁 (1986) 月刊むし (179): 42.

(東京都台東区, 藤田 宏)

○逆説?アカモンオオモボトシテムシの幼虫

PORTEVIN (1922, Misc. Ent., 26, pp. 4-6) が記載したアカモンオオモボトシテムシ *Diamesus osculans* (VIGORS) の幼虫をみて, おもしろいことに気付いてしまったので書き留めておきたい. 図1は報文中に示された幼虫なるものの全形で, 図2は筆者が Borneo で採集した *Duliticola paradoxa* MjöBERG の雌である. PORTEVIN は同時に, 体長を示す線, 1腹節の腹面図, 肢, 爪を図示しているが, 体長を除き, それらは *D. paradoxa* にほとんど一致してしまう. 記載文にも, 頭部を欠く, 節の基部には2-4-2……と小突起のあること等が書かれている. また, 尾突起が描かれていない. すなわち, PORTEVIN が記載したのはシテムシ科ならず, いわゆる Perty's larva であり, サンヨウベニボタルの1種 (色彩の記述等から判断すれば *paradoxa* ではないようである) と思われる.



サンヨウベニボタルの雄捕獲作戦が MjöBERG によってくり広げられたのは 1919-'24 年 (発表は 1925 年) というから (阪口, 1981, 図説世界の昆虫, 2, pp. 78-81 による), PORTEVIN がそれらの事情を知らなかったのかも知れないが, HATCH (1928) によるカタログや ARNETT (1950, Proc. ent. Soc. Wash., 52, pp. 65-66) にもアカモンオオモボトシテムシ幼虫の記載がなされている旨の引用があるので, *paradoxa* に触発されて逆説ならぬ通説をここに披瀝した次第である.

(神奈川県座間市, 西川正明)

◇ 連 絡 ◇

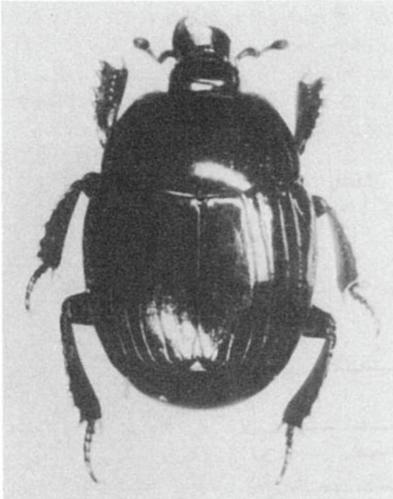
先般, 会費の納入状況を会員各位にご通知いたしました, ご送金は奥付に記しました郵便振替にてお願い申し上げます. (会計世話人)

## ○ヘリテンエンマムシ東京都の採集例

ヘリテンエンマムシ *Margarinotus marginepunctatus* (LEWIS) のわが国における分布は北海道と四国が知られていたが、最近月刊むし198号(1987)に山梨県の採集例が報告され本州から初めて記録された。筆者は本種を東京都稲城市で採集しているので報告しておきたい。

1頭, 東京都稲城市坂浜, 2. v. 1987.

丘陵地の雑木林の中に捨てられていた野菜クズの下から採集したが, 1頭しか採集出来ず, 再度一週間後に同地および周辺地域で調査を試みたが追加することが出来なかった。



筆者の経験では, 野菜クズに集来するエンマムシ類は各種共一度に多数を得ることが普通であったので上記の結果は不思議に思われた。成虫発生の終末期に当たっていたものが偶然得られたと考えるのが妥当と思えるが, 今後更に調べて改めて報告したい。

最後ではあるが撮影の労をとられた西井 香氏に心からお礼申し上げます。

(東京都世田谷区, 沢田和宏)

## ○クロアリツカエンマムシをクロクサアリの巣から採集

クロアリツカエンマムシ *Hetaerius optatus* LEWIS は, 1884年に北海道石狩川付近で得られた1頭を基に記載された種である。G. LEWIS が札幌に滞在したのは, 草間(1971)の紹介によれば1880年8月5日から16日までであり, その間に本種が

採集されたと思われる。しかし, LEWIS (1884)の記載を読むと, どうも本人が採集したのではないように見受けられるし, 少なくともアリの巣から直接採集した訳ではないようである。その様な推察はともかく, 本種は久松(1985)によれば, 北海道, 本州, 四国に分布するが, 公表された採集記録はきわめて少ないものと思われる。その原因は宿主蟻が判明しなかったからにはほかならない。筆者は表題の通り, 本種をクロクサアリ *Lasius fuliginosus* (LATREILLE) の巣の表面から採集したので報告する。

1♀, 新潟県西蒲原郡弥彦山(標高約300mm地点), 12. viii. 1987, 筆者採集。

クロクサアリの巣から採集されるエンマムシは, 平野(1984)が最初 *Onthophilus* sp. として報告したシナノセスジエンマムシ *Onthophilus silvae* LEWIS が知られるが, この種は発見できなかった。Californiaでの調査を報告したMAC KAY (1983)によれば, 同地では3種の *Hetaerius* と2種の *Onthophilus* が, *Pogonomyrmex* 属の3種のアリの巣から採集されるというが, それらが収獲蟻という以外 *Lasius* 属との関係は筆者には不明である。なお, 弥彦山の本種を発見した巣には多数の本種の幼虫と思われるものが生息していたが, アリはそれらに無関心であった。

## 参 考 文 献

- 平野幸彦, 1984. 神奈川虫報, (70): 30.  
久松定成, 1985. 上野俊一ほか(編), 原色日本甲虫図鑑, 2: 230, 保育社, 大阪.  
LEWIS, G., 1884. Ann. Mag. nat. Hist., (5) 13: 137.  
MAC KAY, W.P., 1983. Coleopt. Bull., 37: 240.

(神奈川県座間市, 西川正明)

◇原稿募集◇ 79/80号をお届けできましたので, 41~80号の総目次の発行を予定しています。また, 引続き81号以降の発行に鋭意努める所存ですので, 会員諸賢のご投稿とご支援を願ひ上げます。

## 甲虫談話会

会費(一ケ年)3000円, 次号は1988年4月下旬

発行予定

投稿〆切は 2月末日

発行人 上野俊一

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364)2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭W針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 東京(3)21129

電話 (03)409-6401 (ムシは一番)

FAX (03)409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社

## タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下¥1,300, 4個以上¥850 (以下同様), 第2地帯¥1,500, ¥950, 第3地帯¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

## タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島2-21-25

電話 (03)811-4547, 振替 6-113479